

「地域をフルーツヴィレッジに」～移住就農の相談役も～

南三陸町入谷地区の阿部博之さんは農業委員を務めるほか、果樹栽培を通じて地域を盛り上げようと日々奮闘している。

阿部さんはシャインマスカットなどの大粒品種の栽培が町内で盛んになっていることから、昨年11月に町内のぶどう生産者11名で「南三陸大粒ぶどう協議会」を設立した。会員は若年者や女性も加入しており、今年から「しおかぜ葡萄」の愛称で販売を開始した。

阿部さんは、ぶどう栽培だけではなく、後継者育成にも力を注いでいる。移住者や新規就農者の相談役となり、これまでも地域への移住者を多く受け入れてきた。地域おこし協力隊でワイン用・生食用ぶどうの栽培を手掛ける(有)山藤運輸で働く太田和^{かず}慶^{よし}さんは阿部さんとの出会いを契機に移住を決めた一人だ。

太田さんは「阿部さんが親身になって人や土地を繋いでくれたことが、移住の決め手となった」と話す。

今後について阿部さんは「ぶどうの栽培希望者を募り、将来は入谷地区をフルーツヴィレッジにしたい」と笑顔で語る。

【記事提供】南三陸町農業委員会

阿部さん（左）と太田さん



協議会の目揃え会に並ぶ「しおかぜ葡萄」

